LDK 空間と家族間コミュニケーションのしやすさ満足度に関する研究

正会員　○中原みまえ [1*]　同　岩山遼太郎 [1*]　同　嶋谷圭一 [2*]
同　高口倖暉 [2*]　同　中山誠健 [2*]　同　鈴木規道 [2*]

コミュニケーション　LDK 面積　キッチン形状
家族関係　住まい

1. 緒言

国土交通省の住生活基本計画では、居住面積水準が示され、世帯人数に応じた広さを推奨している [1]。住宅設計において、LDK は家族が集う主要な場所であり、その面積は 30m^2～40m^2 程度の満足度が高いという報告がある [2,3]。本来、LDK 空間に関しても人数に応じた面積が必要だと考えられるが、調査報告の事例がほとんどない。また、LDK におけるキッチンは食事の準備や家事の場だけでなく、家族間のコミュニケーションを行う場として計画される [4]。LDK 全体の面積に加え、キッチンの形状（壁付け型、対面型、アイランド型など）は空間構成に影響を与える重要な要素である。そこで本研究では、LDK の床面積を居住人数で除した値（一人当たりの LDK 面積）を考慮したうえで、キッチンの形状と家族間コミュニケーションのしやすさに関する満足度との関連について分析することを目的とした。

2. 調査手法

2023 年 1 月より「健康と住まいの環境に関する全国調査: Japan housing and Health cohort study (J-hohec)」を開始し、2026 年夏まで WEB 設問票による半年毎の追跡調査を実施している [5]。なお、建物情報に関しては、図面・仕様書から客観的データとして取得している。

本研究では、キッチン形状の設問を追加した Wave2（2023 年 7 月 24 日-9 月 30 日）の 4,250 名の回答データから、単身世帯を除外し、その他の解析に必要な情報が全て揃っていた戸建住宅居住者の 1,924 名を対象とした。

アウトカムには、5 段階のリッカート尺度で確認した家族間コミュニケーションのしやすさの満足度（とても不満、不満、どちらとも言えない、満足、とても満足）を用いた。説明変数には、LDK の床面積を居住人数で除した値（一人当たりの LDK 面積）と、設問で図を用いて確認したキッチンの形状（壁付け型、対面型、アイランド型、独立キッチン、その他）を用いた。他の因子による満足度への影響を考慮するため、個人属性（性別、年齢、世帯年収、家族構成：子育て、高齢者同居）、住環境（暑さ／騒音／暗さを感じる頻度：ない、めったにない、たまにある、よくある）を調整変数として含めた。

3. 統計解析

家族間コミュニケーションのしやすさの満足度を従属変数として、重回帰分析により標準化係数（β）及び 95% 信頼区間を算出した。一人当たりの LDK 面積については、一定以上の広さで家族間コミュニケーションのしやすさの満足度が頭打ち（天井効果）となる可能性を考慮し、一次項に加えて二次項を投入した。なお、一次項と二次項間の多重共線性を低減するため、変数は標準化した上で解析を行った。$p<0.05$ を統計的有意とし、独立変数間の多重共線性は VIF（3 未満）で確認した。全ての分析は、SPSS version 27.0 for Windows（SPSS Inc.）を用いた。

4. 結果

表 1 に、家族間コミュニケーションのしやすさの満足度を従属変数とした重回帰分析の結果を示す。一人当たりの LDK 面積は有意な正の関連（β ＝0.090）を示したが、二次項については有意な関連は認められなかった。キッチンの形状については、壁付け型を基準として、アイランド型が有意な正の関連（β ＝0.097）を示した。

表 1. 重回帰分析による家族間コミュニケーションとの関連

	β	95%信頼区間 下限	95%信頼区間 上限	*p*
LDK 面積／人	**0.090**	**0.040**	**0.126**	**0.000**
(LDK 面積／人)^2	0.000	-0.034	0.034	0.998
壁付け型キッチン				
対面型	0.046	-0.037	0.163	0.218
アイランド型	**0.097**	**0.041**	**0.268**	**0.008**
独立型	-0.017	-0.285	0.127	0.454
その他	0.014	-0.132	0.242	0.563

a 調整変数：性別、年齢、世帯年収、家族構成：子育て、高齢者同居、暑さ／騒音／暗さを感じる頻度
b **太字**： $p < 0.05$

続けて、図 1 には、一人当たりの LDK 面積と家族間コミュニケーションのしやすさの満足度に関する回帰直線を示す。一人当たりの LDK 面積が 20m^2 程度と、一般的な値よりも大きい範囲においても、満足度は直線的に上昇する傾向が確認された。

A Study on Satisfaction with the Ease of Communication Among Family Members in LDK　M. NAKAHARA, R. IWAYAMA, K. SHIMATANI, K. TAKAGUCHI, Y. NAKAYAMA, N. SUZUKI

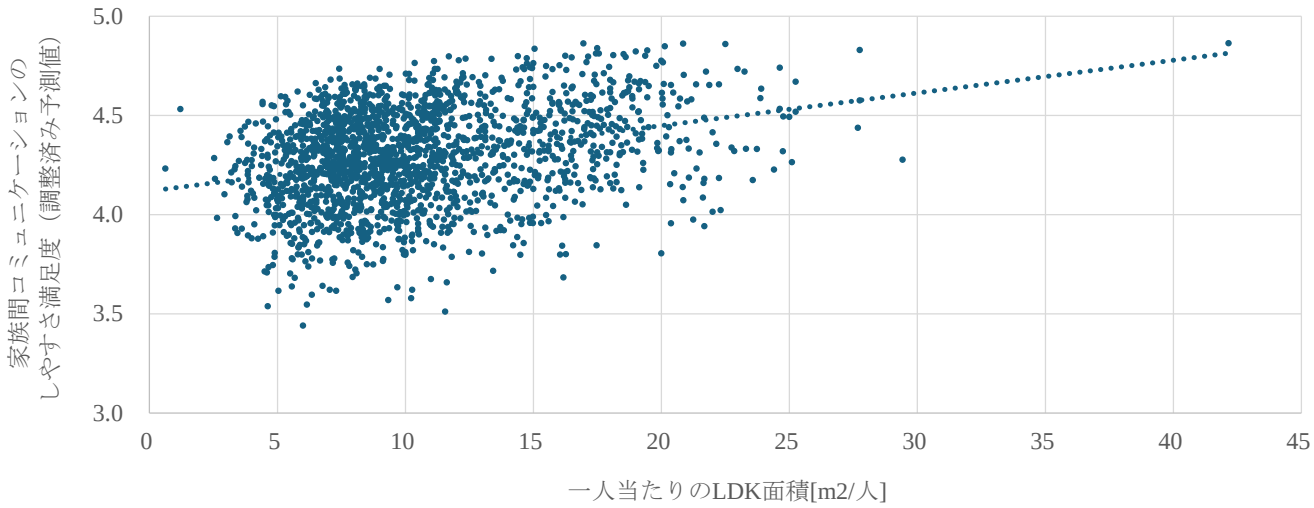

図 1. 家族間コミュニケーションのしやすさに対する一人当たりの LDK 面積の回帰直線

5. 考察

本研究では、LDK の面積およびキッチンの形状が家族間コミュニケーションのしやすさに及ぼす影響について検討を行った。その結果、一人当たりの LDK 面積が大きいほど、家族間コミュニケーションのしやすさの満足度が高まることが示唆された。先行研究においても、居住空間のゆとりが心理的快適性や家族の関係性に良好な影響を及ぼすことが報告されており、本結果はこれらの知見と一致する[6,7]。一方で、一人当たりの LDK 面積の二次項は有意ではなく、満足度は面積の増加とともに直線的に向上する傾向が確認された。また、キッチン形状においては、アイランド型のみが壁付け型と比較して有意に高い関連を示しており、家族がキッチンを介して対面でコミュニケーションを取りやすいレイアウトが影響した可能性が考えられる。

今回の解析では、コミュニケーションに影響を与え得る要素として、家具などのインテリアやリビング階段など間取りによる影響を考慮できていない[8,9]。今後の調査では、他の空間構成要素を更に考慮し、より詳細な検討を行う予定である。

6. 結論

本研究では、LDK の面積およびキッチンの形状と家族間コミュニケーションのしやすさの満足度との関連を検討した。その結果、一人当たりの LDK 面積およびアイランド型キッチンが、家族間コミュニケーションのしやすさに有意な正の影響を及ぼすことが示された。本知見は、LDK の空間的ゆとりやレイアウトが、家族間の交流促進に寄与する可能性を示唆しており、今後の住宅設計における空間構成の検討に資するものである。今後は、他の住宅要素や家族構成の違いを考慮した多角的な検討が求められる。

7. 引用

1. 国土交通省、住生活基本計画 https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk2_000032.html
2. 鮫島 他、面積水準を指標とした座敷と LDK 空間確保の関係とその変容 ：現代住宅における平面構成の変容に関する研究 第 3 報、日本建築学会九州支部研究報告、2011
3. 吉田 他、住宅や居間の広さの実態とその満足感および望ましい広さに関するアンケート調査、日本建築学会技術報告集、2014
4. 緒方 他、キッチン空間が間取りに与える影響に関する研究　共同住宅における先進的な改修事例を対象として、日本建築学会学術講演会、2022
5. 中山ら，ゼロ次予防戦略に基づく「健康と住まいの環境に関する全国調査」プロファイル，2024 年度日本建築学会大会，2024
6. 梁瀬 他、住空間の快適性に関わる生理・心理学的研究、日本家政学会誌/49 巻 9 号、1989
7. 木下 他、住まいにおける家族の居場所に関する実態調査、日本インテリア学会、2010
8. 濱 保久、インテリアが対人コミュニケーションに及ぼす影響、日本心理学会第 82 回大会、2018
9. 仲谷 他、住空間における気配・コミュニケーション領域に関する研究、住宅総合研究財団研究論文集、2010

*1 積水ハウス（株）　総合住宅研究所
*2 千葉大学予防医学センター

*1 Comprehensive Housing R&D Institute, Sekisui house, Ltd.
*2 Center for Preventive Medical Sciences, Chiba University